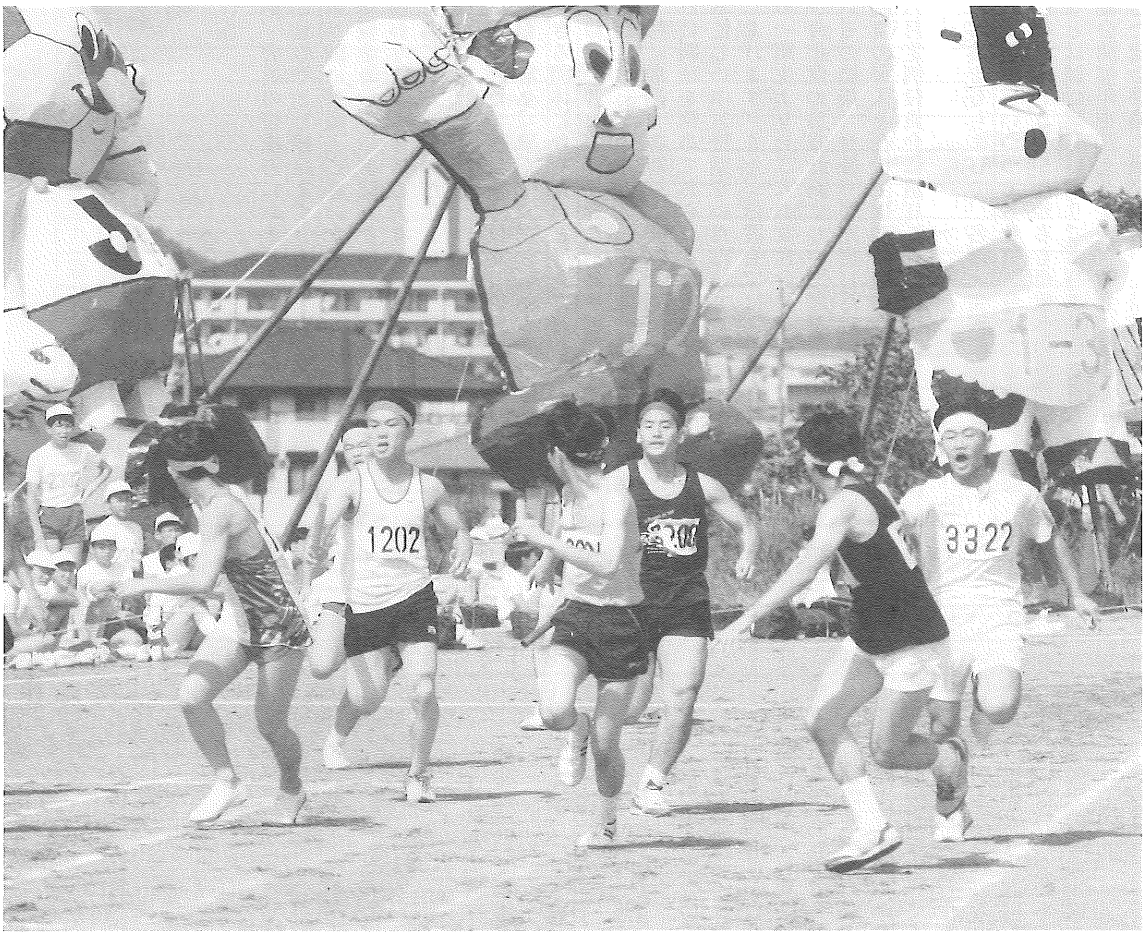
Alma Mater 白陵

第14号
平成6年8月20日発行
発行　白陵会
〒676 高砂市阿弥陀町阿弥陀2260
TEL. 0794 (47) 1675(代)



みんな寄ったら楽しいで

先日、白陵会の有志によるゴルフコンペに出席しました。卒業以来十五年ほとんど顔を合わす機会がなかった同級生と生徒時代の思い出話に花を咲かせながら楽しく一日を過ごすことができた訳ですが、そのなかでどちらからともなく「みんなに声をかけて一度同期で集まらへんか。」という話がでました。「去るもの日々に疎し」といいますようにやはり顔を合わさなければ疎遠になってしまいます。

平成大不況もやっと底をついたといわれていますが、まだまだ経済的には厳しい状況が続いており、身近でもいやな話をよく耳にします。ついついすさんだ心になりがちですが、古い友とのふれあいはそんな気持ちを癒してくれるようです。

白陵会がそんなオアシスのような場であって欲しいと願う今日この頃です。

一層の充実を目指して

会長　沼田　好道

海山の恋しい季節、会員の皆様方におかれましてはそれぞれに楽しい夏休みをお過ごしのことと拝します。また、平素は本会活動にご理解・ご協力を賜り誠に有難うございます。

特に、昨年は会報資金カンパのお願いを申しあげましたところ、突然の依頼にもかかわりませず多数の方々よりご応募を賜り、同窓会の絆を改めて強く感じ大変感激いたしました。皆様方のご支援に対し心より厚く御礼申しあげます。

さて、三十年の歳月を経た学校は驚くばかりの発展を続けていますが、私たち同窓会も、常々、早く一人立ちし一つの組織として真に学校をサポートできる団体になりたいと考えております。既に柔道部OB会・野球部OB会等は毎年活発な活動を展開しておられますが、昨年は二期生が入学三十年を記念して白陵会館で盛大な同窓会を催されるなど、特に最近、各期毎に同窓会開催の気運が自然に盛り上がりそれぞれに親睦を深めておられることを聞き大変心強く感じております。お忙しい中お世話をいただいております方々には心より厚く感謝申しあげます。また、白陵会ではこの度、役員組織の活性化を図るため一期生よりお二人の女性会員を理事に迎え、中長期の活動方針及び今年度の事業計画について理事会で活発な意見交換を行いました。その結果、今後一層充実した活動を展開するためには、予算会計制度の導入と在校生援助の長期計画が必要であるとの結論に達し、六月定例役員会に諮りこれらについてご協議いただきました。

皆様方のご協力のお陰をもちまして、名簿・会報の発行も定着するなど同窓会活動の基盤が整いつつある今日、今またこうして同窓諸氏の皆様方とご一緒に、ささやかながらも母校への援助の方策について語り合えることは誠に嬉しい限りであります。こうした中、来年には五年毎の総会開催年を迎えますが、総会に向けては、天野副会長を委員長とした総会準備委員会が総力を結集し鋭意準備を進めております。ご案内を差し上げました節には、お懐かしいお顔が多数揃いますよう、ぜひお誘い合わせのうえお気軽にお出かけください。

最後に、会員の皆様方のますますのご活躍をお祈りしご挨拶といたします。

'95白陵会総会決定

総会準備委員長　天野　泰文

平成六年六月二十五日白陵会定例役員会が開催され、次期白陵会総会について審議がなされ、以下のとおり決定されました。

日時　平成七年八月十二日（土曜日）
場所　姫路キャッスルホテル

総会場所については、従来より白陵高校白陵会館ホールにおいて同窓会総会、体育館において懇親会が行われておりましたが、学校内での開催は学校側に準備等多大の負担をかけること、車で総会出席者が多く懇親会でのアルコール提供及び総会後の二次会が不便であること等考慮し、また遠方より参加される卒業生のため新幹線等交通の便が良い駅近辺のホテルでの開催を考え、平成七年度総会は姫路キャッスルホテルにおいて開催することに決定しました。

開催日についても開校記念日の十一月に行われるのが通例でしたが、多数の同窓生が参加しやすい時期である夏休みお盆前の八月十二日が総会日になりました。

このように次回総会はホテル開催することになりましたので、従前にない総会にと趣向を凝らした企画をする予定ですので、多数の卒業生の総会出席を期待しております。

大学入学試験合格者数

国公立大学

大学名	4年	5年	6年
東京大	22	34	17
京都大	8	14	10
大阪大	18	26	30
神戸大	10	11	12
北海道大	12	1	6
東北大	4	7	5
一橋大	3	3	4
横浜国大	2	4	6
岡山大	4	6	6
広島大	5	2	4
九州大	3		2
京都府医大	2	1	
大阪市大	5	5	4
大阪府大	9	2	6
防衛医大	7	12	6
その他	45	21	41
合格者数（内医学部）	159 (27)	149 (31)	159 (25)
対卒業生国公立大合格率	88%	82%	84%

私立大学

大学名	4年	5年	6年
早稲田大	30	22	24
慶応大	14	11	20
上智大	3	4	1
中央大	1	6	6
東京理大	7	9	11
明治大	2	1	1
関西学院大	19	16	21
関西大	17	7	9
同志社大	15	19	28
立命館大	9	15	8
甲南大	7	3	1
近畿大	6	5	4
京都産業大		1	1
大阪医大	3	2	3
兵庫医大	2	2	2
産業医大	1	1	
その他	28	17	29
合格者数（内医学部）	164 (8)	141 (9)	169 (7)

白陵会役員名簿

役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名
会長	3	沼田 好道	常任幹事	8	黒川 仁	常任幹事	28	松本 守弘
副会長	1	森本 勝行	〃	9	貞広 始	〃	29	川田 雅彦
〃	3	天野 泰文	〃	9	中沢 賢悟	〃	29	長濱 道治
〃	6	上田 喜裕	〃	11	志方 正彦	校内幹事	1	芳木 健憲
理事	2	川副 義文	〃	12	若松 修	〃	2	大内 義博
〃	2	名倉 正明	〃	13	水田 堅	〃	3	長濱 憲雄
〃	2	湖中 明憲	〃	14	片山 安孝	〃	3	黒田 洋
〃	3	神吉 裕資	〃	16	谷口 泰司	〃	4	原田 正和
〃	4	森崎 晴友	〃	17	岡野 清和	〃	6	福井 孝昌
〃	10	吉田 達哉	〃	18	秋田 直樹	〃	11	小紫 一貴
〃（会計）	10	加藤 雅宣	〃	19	牛尾 英樹	〃	11	宮崎陽太郎
〃（書記）	10	下村 康夫	〃	20	山内 正嗣	〃	12	畔上 昇
〃	12	奥野 昌三	〃	21	河合 恵介	〃	12	山口 透
〃	1	芝本真須美	〃	21	中谷 泰健	〃	12	中村 大吾
〃	1	武田久美子	〃	22	新田 智弘	〃	14	久保 博彦
会計監査	6	大崎 章快	〃	23	三木 健史	〃	15	村上 幸生
〃	15	町田 直隆	〃	23	中里 寛	〃	15	西 善弘
常任幹事	1	伊藤 達也	〃	24	奥本 光廣	顧問	理事長	三木 一正
〃	1	正井 和野	〃	24	藤原 省悟	〃	校長	八木 誠造
〃	4	鎌田 芳寛	〃	25	多根 正明	〃	教頭	濱田 忠彦
〃	5	塩崎 育男	〃	26	池田 宗弘	〃	1	遠山 寛
〃	7	萩本 義郎	〃	27	山田 将義	〃	1	黒坂 康夫
〃	8	山戸 敏彦	〃	28	柿本 晴彦	〃	1	黒川 芳一

白陵今昔物語 8

修学旅行の変遷

白陵時代に何が一番楽しかったですかと尋ねられ、真っ先に修学旅行を思い出すのは私だけでしょうか。低学年の時には、毎年、高校二年生が楽しそうに出発していくのを横目で眺め、修学旅行に行くまでは死んでも死にきれないなどと考えながら欠点科目の帳尻合わせに追われたものでした。また、一方、故三木園長先生がご健在であった頃は、（従って最近の卒業生には理解できないと思いますが）、この修学旅行の期間中の園長先生の明らかなご不在を心から歓迎したものでした。（先生も修学旅行を楽しみにされて必ず引率されたので、その間、先生の授業はなかった）長い修学旅行の歴史の中には、北海道からの帰路の船中で園長先生の補習が行われるため、毎夜、宿で予習をしたとか、丸刈りであった頃、髪が長いと、電車を降りるやいなや見知らぬ土地の散髪屋へつれて行かれたとか、たまたま旅先で知り合った他校の女生徒に手紙を送ったことがばれて後で特別指導を受けたとか、様々な出来事もありましたが、日頃の苦しみから解放され、友人と楽しく過ごした日々は、その当時、白陵でこんな楽しい修学旅行にいけるのかという新鮮な感激を与えてくれたものでした。そこで、今回の今昔物語は「修学旅行の変遷」を取り上げ、親子で同窓生という一期生と二十九期生の芝本氏に特別寄稿をお願いしました。しかし、残念ながら紙面の関係で三十年の歴史を一度にお伝えすることができません。この続きは、白陵時代のアルバムを紐解いて、ぜひ、あなた自身でお綴り下さい。

修学旅行の目的

雄大な自然に接することによって、豊かな情操を育てると共に、規律ある団体行動を通して健康や安全、集団生活のきまり、公衆道徳などについて望ましい体験を得る。

修学旅行先の移り変わり

昭和39年～40年　1期生～2期生
　九州（長崎・雲仙・熊本）　6泊7日
昭和41年～52年　3期生～14期生
　九州（鹿児島・宮崎・別府・阿蘇・長崎）　6泊7日
昭和53年～58年　15期生～20期生
　北海道（函館～知床）　6泊7日～8泊9日
昭和59年・61年　21期生・23期生
　北海道（函館～知床）　6泊7日
昭和60年　22期生
昭和62年～現在　24期生～31期生（現高2）
　北海道（札幌～知床）　5泊6日

九州方面への旅は、当初、瀬戸内海フェリーを利用しての船旅であった。その後、寝台列車で鹿児島へ行きバスで九州を一周するコースが定着した。

北海道への旅も、前半は往路は夜行寝台列車・青函連絡船を乗り継いで函館からバスで道内を一周し、復路は小樽港から日本海フェリーで福井の敦賀港へ着きバスで姫路へ帰る全行程8泊9日の長旅であった。その後、時代の変化に伴い航空機が利用されるようになり、復路（千歳＝大阪間）のみの航空機利用期間を経て、昭和62年からは往復とも航空機を利用しての快適な旅となっている。

修学旅行の思い出

第1期生 芝本 真須美

毎日、暑い日が続いておりますが、同窓会の皆様には、お元気でお過ごしの事と存じます。

さて、この度修学旅行の思い出というものを書いてほしいとのご依頼がありましたが、なにぶん、遠い昔の事なので、思いつくままに書かせていただきます。

白陵高校の第一回目の修学旅行、卒業してから、すでに30年近くも経っているというのに、私自身の中ではいまだに、白陵は昔のままの白陵であり、変わってはいないけれど、受け継がれてきた校風と伝統は、ますます磨きのかかったものとなりつつあります。

でも、学校や時代がどのように変わろうとも、楽しい思い出が残る修学旅行自体は、今も昔もそんなに変わるものではないでしょう。

たそがれ時、神戸港からのフェリーでの出発、翌朝、別府に着く頃にはきれいな朝日がのぼり、あたりに光が満ちあふれ、まぶしさに目を閉じ、これから始まる旅の楽しさに、胸はずませておりたった日、そして、霧で登れなかった阿蘇山、雨のオランダ坂、どれをとってみても印象深い思い出ばかりでした。

最近のように、イベントやレジャー施設だけで、人を集める観光地とは違い、情緒豊かな風景やたたずまいを、より自然に、私たちの心を強くとらえ、酔わせてくれたような……

そう思う日々のなつかしさ、そして今思う歳月の早さを感じるこの頃です。

修学旅行について

第29期生 芝本 幸平

梅雨の時期の修学旅行。しかし、行先は梅雨のない北海道。終始良い天気だった。兵庫県から千数百キロメートル離れている北海道は僕にとって国内にある外国のようなイメージを持っていました。そんな北海道に降り立った時、一種の感動を覚えました。それは、夏にもかかわらずあの涼しさ、そして、兵庫県では考えられないあの広大さであった。

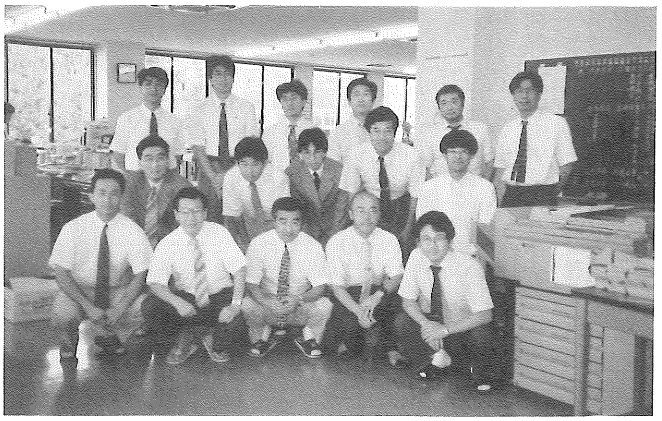
出発前日、今だかつて経験のない5泊6日の旅行でいやがおうにも緊張が襲ってきた。そして、翌日、いよいよ未知なる地である北海道へ出発。飛行機では運よく窓のそばに座れて窓の外の景色を最高に味わうことができた。そして、北海道に到着。その後、バスの中では、みんなはしゃぎ、カラオケをしたり、バスガイドさんの話をきいたりし、とても楽しく過ごすことができた。そんなことをしながら、様々な所をまわった。まさに、北海道は神秘の国と呼ぶにふさわしく、摩周湖などの湖は吸い込まれるほどに透明で美しかった。

また、あたりを見回せば、地平線が見えるほどに広さを感じることができた。その他、硫黄山、昭和新山など自然の偉大さを感じざるを得ないものばかりで、感動しきりでした。でも、やはり修学旅行の最大の楽しみは、宿に泊まって、みんなと話しをすることでしょう。それぞれ、数人で一部屋に泊まるが、寝るまではじっとしておれずにあちこち部屋をまわり、話をしに行く。これこそ、旅行の最大イベントではなかったろうか。今になって思えば、修学旅行とはこれまで何度か体験したが、どれもこれも深く思い出として残っているものばかり。ひょっとすると、これこそが、修学旅行の本当の意義なのかもしれないと思うのです。

白陵軍団全員集合(7)

校内幹事

白陵会校内幹事とは、白陵の卒業生が母校の教壇に立ちさえすれば与えられる役職である。意識的に作られた会派ではなく、したがって今までに会合や宴会を開いたことは一度もない。現在皆さんの母校で以下の卒業生が勤務しているということで、各年代を代表して、芳木、宮崎、岡野が他己紹介をする。



一～六期生

芳木（一期） 月一回ぐらいのペースで大爆発を起こして、生徒を震えあがらせている。そのため根は優しいのだが誤解されている。三十代半ばに隠し切れなくなって頭を丸めた。

大内（二期） 大学時代、演劇部で培ったやかましいほどの大声は今も健在。若い時は生徒にとって恐怖の存在だったが、今は中年の優しさといやらしさとで勝負している。

川副（二期） 若い時は元気はつらつの好青年で、女生徒の人気の的であったが、今は生徒部長という重責のためか、頭は白いものが大部分を占め、悩める中年の魅力が漂う。演歌を歌わせると右に出る者はいない。

長浜（三期） 真面目で淡々としてわかり易い授業で定評があるが、長女が誕生した時はさすがにうれしかったのか、相好をくずして生徒に話したという。趣味はヨガで、気持ちが悪くなるほど体が柔らかい。

黒田（三期） 白陵卒業生としては、音楽の道一筋という異端児。白陵の文化の象徴的存在である。最近やや腹が出てきた以外は、見かけは若い時とまったく変わらない。

原田（四期） 独自の人生観を持ち、かたくなにわが道を進む頑固者。大食家であるが、あまり太らないのが自慢である。関西では珍しいドラゴンズファン。

福井（六期） 「永遠なる少年」といわれるほどの純粋な心の持ち主。今年から新課程の導入により、専門の物理のほかに技術家庭も受け持つことになって、毎日汗を流している。

十一期～十二期

柔道大会での必要以上の華麗な受け身と、r―GTPの数値の高さでは定評のある「あぜやん」。

もしその数値において彼をしのぐとすればこの人をおいて他になく、何年も前は運動会職員チーム短距離界のエースであった「やーさん」。

知らない人から決して数学の教師だと疑われる心配はなく、マラソン大会においては私とケツから一・二を争う好敵手の「だいごちゃん」。

『越後屋、おまえも相当の悪じゃのう』という憎めぬ悪役を二で割って三足したようなヤツだが、私とは親兄弟以上の長い付き合いになる「KOMU」。

そして白陵一の貴公子と言われる私。

十二、十一期生の校内幹事は以上五名（畔上、山口、中村、小紫、宮崎）です。なお、安易な言葉で白陵への思い入れなど口が裂けても言わぬこれらの屈折した面々を、限られた紙面で最高の敬意を表し紹介するとすればこのようになることを申し添えておきます。

十四期～十七期

十四期の久保氏、どんな分野でもまったく知らないことはないといってよいくらい物知りで、白陵の歩く百科事典と言われている。

十五期の村上氏、現代社会において日毎に忘れ去られつつあるトラディショナルな男のロマンを常に追い求める姿には人生の悲哀さえも感じられる。

同じく十五期の西氏、身長百八十五センチという恵まれた体を利用して、趣味の歌舞伎鑑賞を常に特等席から楽しんでいる。またその長身をいかした飲みっぷりは豪快そのものである。

私、十七期の岡野、現在、英国を発祥の地とするあるものに魅せられ、その芸術性を追求するまでに至っている。白陵のニックファルドと呼ばれる日も近いであろう。

最近のわが国の政界の急変にもたがわず、白陵も、生徒の頭髪自由化、六十分・六時間授業、床のフローリング化、全教室冷暖房完備など、昔の白陵では考えることすらできなかったことが、次々と起きている。卒業生の皆さんにも、新しい白陵をぜひ見ていただきたい。その節には以上の校内幹事に声をかけてもらえればうれしい限りである。

会報資金カンパの御礼

前回の第13号紙面において、会報発行に係る任意の資金援助としてのカンパをお願いしましたところ、予想をはるかに上回る多数のご協力を得、14号発行日現在、約1,000,000円余を計上させて頂いております。本号におきまして、ご協力者のご氏名のみ掲載させて頂きました。今後この会報の役割を十分に認識した上で、よりホットな広報活動を行って行かなければならないと痛感致しております。本当にありがとうございました。

広報委員長　吉田達哉

会報資金カンパ応募者ご芳名(卒業期別・五十音順)寄付 川戸 茂先生(初代教頭・元法人理事)

1.青柳のぶ子
1.伊藤　達也
1.黒川　芳一
1.黒坂　康夫
1.芝本真須美
1.武田久美子
1.遠山　寛
1.藤田　昇子
1.三木　一貫
1.八木　芳章
1.芳木　健憲
2.明石　季憲
2.浅見　恵子
2.網干　義也
2.井上　喜文
2.石見　健三
2.大内　義博
2.金綱　麗子
2.金田　芳郎
2.川副　義文
2.湖中　明憲
2.小林　正一
2.駒井　一久
2.小山　憲
2.佐伯　正万
2.諏澤　義和
2.立岩　二朗
2.田中　隆夫
2.名倉　正明
2.林　永子
2.福島　哲郎
2.圓山　正信
2.水野　透
2.森田　潔
2.矢木　学
2.山口加乃子
2.弓岡　敏幸
3.天野　泰文
3.有川寿々子
3.井上　早苗
3.今井真理子
3.石見　直子
3.上田さとみ
3.上野　恵三
3.大橋　一徳
3.大久保　彰
3.岡本　敏夫
3.織田　誠
3.神吉　裕資
3.滝井なみき
3.津川　美幸
3.中井　信一
3.長濱　憲雄
3.沼田　好道
3.野村　唱子
3.広瀬　啓次
3.藤野　健治
3.松本　佳代
3.松本　利恵
4.生田　和良
4.鎌田　芳寛
4.小西みどり
4.柴田　義弘
4.杉野　式康
4.長尾　武
4.西倉　高明
4.平井　誠一
4.圓尾　佳子
4.森崎　晴友
4.吉田　美紀
4.米田　有三
5.浅田　強
5.井澤　隆文
5.大塚　霊雲
5.太幸　五朗
5.岡本　栄介
5.澤上　順一
5.塩崎　育男
5.長尾　直美
5.橋本　義仁
5.松本　茂
5.森　賢功
5.山本多喜男
6.上田　喜裕
6.大崎　章快
6.岡田　好弘
6.児島　正佳
6.作元真知子
6.佐々木義剛
6.白国　紀行
6.高瀬　祐之
6.渡海幸二良
6.福井　孝昌
6.松尾　和芳
6.松浦　康裕
6.皆木　彰生
6.宮脇　禄郎
7.井置まり子
7.榊原　良明
7.高田　信秀
7.多田　征幸
7.土岡　道弘
7.中原　克己
7.萩本　義郎
7.福島　正義
7.室田　武伸
7.吉田　耕治
8.井置　泰三
8.大角加衣子
8.神吉　佳昌
8.黒川　仁
8.曽谷　治之
8.中木村　進
8.中島　心一
8.圓山　成人
8.山戸　敏彦
9.尾松　悦子
9.亀井　龍司
9.喜多村公典
9.杉山　和彦
9.須田　学
9.竹村　英樹
9.肥野真由美
9.法田　公良
9.前田　茂
9.道下　秀幸
9.米澤　康隆
10.天野　宏
10.石原　茂
10.岡崎　修一
10.尾崎　孝平
10.加藤　雅宣
10.下村　康夫
10.高橋　久義
10.田中　裕行
10.中野　宏幸
10.西田富士雄
10.畑崎　毅
10.古川　和義
10.三木　元秀
10.山根　弘士
10.吉田　達哉
11.志方　正彦
11.浜尾　秀生
11.三木　信幸
11.宮内　忍
11.毛利　勝彦
11.安井　真一
11.矢吹　智
12.上田　吉生
12.奥野　昌三
12.北爪　勇三
12.木伏　雅彦
12.中村　大吾
12.丸山　隆樹
12.若松　修
13.飯島　義雄
13.池田　昌弘
13.井上　正宏
13.置塩　基
13.加島　裕祐
13.金田　量平
13.金本　弘司
13.小坂　和彦
13.桜井　公夫
13.塩谷　朋弘
13.島津　雅靖
13.西田　吉充
13.林　一郎
13.宮原　博昭
13.森崎　稔史
13.米子　誠二
14.赤尾　良一
14.内海　了子
14.大西　俊明
14.大竹　正章
14.絹川　敬吾
14.槌本　正影
14.原田　孝夫
14.古井　亘
14.前田　直人
14.水本　正昭
14.森田　覚
15.上田　章
15.内山　雅生
15.荻野　泰男
15.川中　千種
15.川野　欣樹
15.岸本　卓也
15.小松原　誠
15.高井圭二郎
15.戸田　和夫
15.中山　成樹
15.浜野　裕彰
15.濱　章夫
15.古谷　涼秋
15.町田　直隆
15.松本　理基
15.宮嶋　茂樹
15.矢野　正人
16.荒尾　潤
16.池永　裕一
16.大村　直人
16.田靡　稔
16.田中　茂喜
16.土師　大助
16.福田　隆
16.山田　尚仁
17.池内　均
17.久保　雅裕
17.倉田　潔
17.小西　秀男
17.田中　荘一
17.西　健一郎
17.二宮　隆志
17.松永　陽介
17.米村　俊哉
18.穴田　勝浩
18.江口　典子
18.大西　淳司
18.岡本　裕司
18.菊池　明雄
18.工藤　大五
18.高田　倫尚
18.田村　元佐
18.中井　一弘
18.野添　正彦
18.森田　尚人
18.八瀬　弘範
19.牛尾　英樹
19.小倉　吉洋
19.神出　計
19.河合　克己
19.竹川　勝也
19.中西　順子
19.那波　弘康
19.布引　久子
19.山中　孝晃
20.浅田　寿士
20.穴田　勝人
20.江角　猛
20.柏木　勝彦
20.菊池　正雄
20.篁　隆雄
20.仲嶋　克彦
20.濱本　徳也
20.藤沢　明隆
20.古川　真
21.後藤　謙吾
21.瀧岡　英憲
21.富山　健太
21.中井　真司
21.野崎　英人
21.林　道義
21.堀　秀行
21.村上　隆晃
21.村川　雅一
21.望月　慎介
22.岡田　十三
22.栗山　正三
22.高宮　渉
22.浜田　国揮
22.北条　雅人
22.三木　知幸
23.石田　栄治
23.伊藤　伴訓
23.岡本　征祥
23.鈴木　郁元
23.須藤　一彦
23.多根　伸明
23.本城　雅史
23.渡辺　成吾
24.石田　浩
24.荻野　強
24.小野　大輔
24.川辺　康広
24.佐々木良逸
24.日高　史人
24.米田　剛
25.赤井　智明
25.笠井　俊克
25.神田　周治
25.北村耕一郎
25.小出　修
25.多根　正明
25.三島　大輔
25.毛利　益忠
25.渡瀬　武彦
26.岡本　明
26.邑橋　直樹
26.川西康太郎
26.郷　譲治
26.清水　芳政
26.田野良太郎
26.藤原　靖浩
26.俞　和夫
27.飯塚　貴子
27.押切　大輔
27.川崎　昌宏
27.倉持　陽介
27.河野　浩明
27.重松勝一郎
27.柴田　龍一
27.竹志　道雄
27.田中裕一郎
27.椿野　直彰
27.濱口　晶
27.藤原　昌子
28.上山　奉伯
28.大垣　優穂
28.岡田　光博
28.斉藤　将仁
28.田中　伸幸
28.玉那覇大作
28.中谷弥一郎
28.中川　智広
28.永田　政之
28.前川　圭
28.前田　兼作

白陵会ニュース

生田　和良北大教授（4期生）文化祭にてエイズシンポジウム

昨年九月五日に行われた白陵文化祭で、四期生の生田和良氏（北海道大学免疫科学研究所教授）を招いて「エイズと人とのたたかい」と題した講演会が催された。スライドなどを使い、約一時間エイズのしくみからその研究の最先端までわかりやすく説明があり、生徒たちも興味深く耳を傾けていた。

講演後、生徒会の企画により「今、AIDSの時代に生きるために」というシンポジウムが続いて行われ、生田氏、8名の生徒、先生2名（内一名は17期岡野先生）が身近な問題としてのエイズを話し合った。タブー視されがちなテーマであるが、生徒からも率直な意見が続出し、特に心の問題、偏見について議論が白熱していた。

第76回全国高校野球選手権大会 ★兵庫大会

▽二回戦　白陵の猛打さく裂

白陵	7	4	0	0					
温泉	0	0	1	0	0				11

（五回コールド）

▽三回戦

星陵	0	0	0		1	1	0		
白陵	0	1	0	0	0	0	0	4	16

★教職員退職者

馬場　鉄夫先生（国語）　昭和57年～12年間在職
重谷　茂先生（美術）　昭和49年～19年間在職
住原　武先生（社会）　平成元年～5年間在職
山本　年雄先生（国語）　平成5年～1年間在職
※以前昭和48年～平成3年在職
藤井　寿先生（図書館長）　昭和58年～11年間在職

白陵会物故者

（慎んでご冥福をお祈りします）

杉田　春一先生（旧職員昭38～48年在職　数学）
平成五年七月　死去
三浦　佳文先生（旧職員昭48～52年在職　理科）
平成五年九月　死去
曽賀　俊雄氏（五期生・学習塾経営）
平成六年四月　死去

平成5年度 会務報告

年月日			内容
5	5	21	名簿発行委員会
	5	27	理事会
	6	19	役員会
	7	17	広報委員会
	7	29	広報委員会
	9	15	白陵運動会
	11	4	理事会
	11	27	役員会
6	2	10	29期生卒業式

平成6年度予算書

【支出の部】

科目	金額（円）
事務費支出	110,000
消耗品費	20,000
印刷費	50,000
通信費	30,000
支払手数料	5,000
雑費	5,000
会議費支出	260,000
理事会費	100,000
役員会費	100,000
委員会費	60,000
事業費支出	2,250,000
総会費	50,000
名簿発行費	200,000
会報発行費	800,000
卒業記念品費	1,100,000
慶弔費	100,000
備品費支出	0
渉外費支出	50,000
予備費支出	49,722
小計	2,719,722
総会積立金	1,000,000
次年度繰越金	13,800,000
合計	17,519,722

【収入の部】

科目	金額（円）
前年度繰越金	14,199,722
会費収入	3,010,000
終身会費	3,000,000
臨時会費	10,000
寄付金収入	0
会費外収入	310,000
名簿収入	10,000
広告収入	0
利息収入	300,000
雑収入	0
総会積立金繰入収入	0
合計	17,519,722

平成5年度 会計報告

平成5年4月～6年3月
（単位　円）

支出		収入	
科目	金額	科目	金額
会議費	199,727	会費	2,850,000
慶弔費	92,010	臨時会費	1,000,500
消耗品費	1,205	受取利息	306,960
通信運搬費	414,622	同窓会名簿	178,500
印刷費	315,480	広告料	128,500
雑費	34,200	寄付金	20,000
支払手数料	20,520		
次年度繰越金	14,199,722	前年度繰越金	10,793,026
合計	15,277,486	合計	15,277,486

編集後記

今年の異常な暑さに辟易しながらも編集スタッフ一同、原稿集めに奔走し汗タラタラの十四号が出来上りました。

本年度より、白陵会役員に初めての女性理事が誕生しました。（今まで女性がいなかったのが不思議なぐらい）早速原稿を依頼し今までの趣と異なった記事内容を皆様にお送りすることが出来たのではないでしょうか？

これを機に、女性からの原稿も増やしていきたいと思いますので、ご意見ご希望等がございましたら、どうかご遠慮なく事務局までご連絡下さい。